

一

出典 田中智晃「ピアノの日本史」(名古屋大学出版会 2021年)

江戸時代から明治時代にかけての河内屋佐助のビジネスについて説明された文章です。時代とともに変化したビジネスや制度についても言及されています。年代や、指示語が示す内容、「第一に」のようなナンバリングの表現にそれぞれ気を配りながら読解しましょう。

**問1【漢字の書き取りの問題】**(解答番号は①～⑥)

a 侵害、b 軌道、c 奉公、d 功績、e 襲名、f 困窮がそれぞれ正答です。全問正答者はいませんでした。同音異義語による誤答が多く見られました。前後の文脈からの的確な語句を判断するようにしましょう。

**問2【空欄補充・前後の文脈から適切なものを選ぶ】**(解答番号は⑦)

第7～8段落の内容から、河内屋佐助が従来の主力事業に加え、農業部、製茶部、楽器部のような新たな分野に進出していることがわかります。正答は②で、正答率は56%でした。

**問3【空欄補充・前後の文脈から適切なものを選ぶ】**(解答番号は⑧)

空欄 **ア** の直前にある「このように」が指す内容、および、第2段落の河内屋佐助の本屋としての特徴(出版から小売まで行う本屋)から正答③が導けます。④は空欄 **ア** の直前「江戸時代の本屋は本を小売販売するだけでなく」という内容と合致しないため誤りです。正答率は40%でした。

**問4【空欄補充・前後の文脈から適切なものを選ぶ】**(解答番号は⑨)

空欄 **イ** の直前にある「こうして」が指す内容(第7～8段落)から、正答⑦が導けます。また、第9段落の内容から「四事業」とは書籍部、農業部、製茶部、楽器部であることがわかります。正答率は83%でした。

**問5【空欄補充・抜き出された文章を補充する問題】**(解答番号は⑩)

抜き出された文章が「一方で」で始まり、「本業の国内での書籍ビジネスは一向に好転することなく」と続くので、前文では本業以外のビジネスが好転しているという内容が述べられているはず。該当する段落は第4段落でした。正答は④で、正答率は90%でした。

**問6【言葉の意味に関する知識を問う問題】**(解答番号は⑪)

正答は⑥です。「名声を誇る」は、物事を成し遂げて世間に広く名が知られるようになることを意味します。問6では「意味の最も遠いもの」を問うていました。正答率は56%でした。

**問7【文脈把握と内容理解に関する問題】**(解答番号は⑫)

傍線部 **B** の1行前にある「そのため」に注意しながら本文を読めば、正答⑤が導けます。正答率は67%でした。

**問8【文脈把握と内容理解に関する問題】**(解答番号は⑬)

傍線部 **C** に続く2文をよく読めば、正答は③だとわかります。正答率は81%でした。

**問9【文脈把握と内容理解に関する問題】**（解答番号は14）

傍線部Dのうち「新時代」と「新時代に対応する商品」が、それぞれ適切に説明されているかどうかを注意しながら選択肢を検討しましょう。正答は③で、正答率は90%でした。

**問10【文脈把握と内容理解に関する問題】**（解答番号は15）

本文全体をよく読んで「明治初期の変化」についてどのように説明されているか、正確に把握しましょう。正答は③で、正答率は63%でした。

**問11【文脈把握と内容理解に関する問題】**（解答番号は16）

正答は④と⑧です。誤答の理由はそれぞれ次のとおりです。①「音楽教育が進展したため」とまでは説明されていない、②「静岡」ではなく本文では「滋賀・三重」、③「インドへ英語の教科書を輸出し、高い評価を得た」ことは本文に記されていない、⑤「河内屋佐助が代々受け継いできた不動産」ではない、⑥は「表面上は撤退」、「関与し続けた」が誤り、⑦は「稲作にも畑作にも隔てなく投資を行った」が誤りです。正答率は11%でした。

**問12【内容合致問題】**（解答番号は17・18）

正答は①と⑧です。①は第6段落で、⑧は第8段落後半でそれぞれ述べられています。完全正答率は21%でした。⑤あるいは⑥を選択した受験生もいましたが、⑤「市場動向を見極めて商品構成を変えたことによって利益を得た」が第3段落後半と合致しないため誤り、⑥「和東茶に焦点をあてた」が第8段落「和東茶の他に滋賀・三重・高知・九州地方の茶も仕入れて」と合致しないため誤りです。

一  
一

出典 伊東俊太郎、村上陽一郎、広重徹「思想史のなかの科学 改訂新版」（平凡社 2002年）

19世紀と20世紀の科学を比べたときの大きな違いの一つに、アприオリな要素を科学のなかで承認するかどうかということがあります。世紀の変わり目頃に数学において、物理学と同様に、アприオリズムが否定された経緯が述べられています。

**問1【漢字の読みと書き取り問題】**（解答番号は19～25）

a 生起 b 劇的 c 上記 d 背理 e 提唱 f 依拠 g 旗印がそれぞれ正答です。全問正答者はいませんでした。「生起」を「正規」、「依拠」を「移居」と誤記する答案や、「劇的」の「劇」を「激」とする答案がしばしば見受けられました。

**問2【空欄補充・文脈把握に関する問題】**（解答番号は26～28）

空欄Ⅰは「矛盾をひきだすことによって、逆に」の文意が成り立つ合理性に注目して適語を選択します。空欄Ⅱは「ところが」の逆接に注意し、「達することができなかった」とする論理展開に対応する語を選択します。空欄Ⅲは「自明の真理」の証明が論点であることを踏まえて解答します。空欄Ⅰの正答は⑨です。正答率は39%でした。空欄Ⅱの正答は④です。正答率は28%でした。空欄Ⅲの正答は⑦です。正答率は60%でした。

**問3【空欄補充・文脈把握に関する問題】**（解答番号は 29）

空欄 **X** は「明らかとされるだけ」が、空欄 **Y** は「あいまい」がキーワードであり、両者が対立する内容を伴う語であることを踏まえ、空欄 **Z** の「定義される」ことの論理性に注意して「論理的」「直観的」「最終的」のいずれを適語とするか解答します。正答は⑧です。正答率は49%でした。

**問4【空欄補充・文脈把握に関する問題】**（解答番号は 30）

逆接の「ところが」があることから、アプリオリズムが否定される文脈を把握しましょう。正答は④です。正答率は44%でした。

**問5【空欄補充・文脈把握に関する問題】**（解答番号は 31）

非ユークリッド幾何学を受け入れない立場が20世紀初頭まで顕在化していたことは空欄のすぐ後に記述されています。正答は①です。正答率は56%でした。

**問6【傍線部の説明・文脈把握と内容理解に関する問題】**（解答番号は 32）

設問にある「今のやり方」を文脈から正しく把握しているかどうかを問う問題です。その「見通し」の説明は12頁の **甲** の章で記述されています。正答は⑧です。正答率は12%でした。

**問7【傍線部の説明・文脈把握と内容理解に関する問題】**（解答番号は 33・34）

設問にある「このような」を踏まえた上で、ここでいうアプリオリズムを正確に理解しているかどうかを問う問題です。単なる内容一致として消去法などで取り組もうとする受験生には明確には消せない選択肢が多くなるように作問されています。例えば、選択肢⑦・⑧は **甲** の章に類似した表記で登場していますが、「定理」と「公理」の違いを明確に理解していない場合、安易に正答としてしまうでしょう。正答は④と⑥です。正答率は19%でした。

**問8【傍線部の理由・文脈把握と内容理解に関する問題】**（解答番号は 35）

正しい数学は一つだけ存在するとの従来の考え方による立場の限界を、正しく把握しているかどうか問われています。正答は⑦です。正答率は58%でした。

**問9【傍線部の説明・文脈把握と内容理解に関する問題】**（解答番号は 36）

設問にある「この立場」が公理主義の立場であることを踏まえ、公理の仮説性について、その本質に十分配慮して正確に解答する必要があります。正答は⑤です。正答率は49%でした。

**問10【傍線部の説明・文脈把握と内容理解に関する問題】**（解答番号は 37）

設問にある「できなかった」の主語は「ヒルベルトの戦略」であるということを踏まえて、正答を求めることが必要です。正答は①です。正答率は10%でした。

**問11【内容理解による小見出しの選択問題】**（解答番号は 38）

小見出しは、文章の主題や中心的主張を反映するように設定する必要があります。差別化の難しい選択肢が並んでいても、惑わされず、本文の本質を明示する選択肢を選びましょう。例えば、選択肢⑦は小見出しとして適当であると判断されそうですが、本文の「ところが」以降は、次章以下への展開について予め触れるだけで、文章の主題や中心的主張を反映していないので、この章の小見出しとしては不適切です。正答は③です。正答率は14%でした。

**問12【内容合致問題】**（解答番号は 39・40）

正答は⑥と⑧です。①：公理や公準はアприオリな真理であるということが近代科学の発達によって確立されたわけではありません。②：ガウス、ロバチェフスキー、ボヤイの三人が見出したのは非ユークリッド幾何学です。③・④：本文に記述されていない内容です。⑤：物理学の一般相対性理論と非ユークリッド幾何学の応用関係が逆です。⑦：本文に記述されていない内容です。⑨：直観に訴える言葉は排除されねばならないとするのが本文の主旨です。完全正答者はいませんでした。一問正答率は30%でした。

**問13【内容理解による表題の選択問題】**（解答番号は41）

アприオリズムが否定されたいきさつを公理の仮説性によって説明した文章であることに注意しましょう。正答は②です。正答率は26%でした。